

殺菌剤使用時の展着剤加用によるモモ果実の薬斑軽減効果

福島県農業総合センター 果樹研究所 病害虫科

1 部門名

果樹－モモ－病害虫防除

2 担当者名

日下部翔平、小松健太郎

3 要旨

酸化亜鉛水和剤（商品名：IC ジンク水和剤）は薬剤散布後収穫可能となるまでの日数が短いものの、収穫期間近に使用すると果実に薬斑が残る。そこで、2024年と2025年に湿展性の高い展着剤加用による薬斑の軽減効果を検証した結果、ポリオキシエチレンメチルポリシロキサン製剤（商品名：まくぴか、以下「P剤」という）、ジオクチルスルホコハク酸ナトリウム及びポリオキシエチレンアルキルエーテル製剤（商品名：ワイドコート、以下「DP剤」とする）の加用で薬斑が軽減された。

- 「あかつき」を対象として、2024年はP剤を収穫6日前、2025年はP剤及びDP剤を収穫2日前に酸化亜鉛水和剤に加用して散布した。
- 展着剤無加用の場合と比較して、P剤は約12.1%～40.0%、DP剤は約3.7%程度に酸化亜鉛水和剤の薬斑が抑えられた。（表1、図1。2024年のデータは省略）。
- 降雨条件等により薬斑の残る程度が変化することに留意する。

表1 展着剤の加用による薬斑軽減効果（2025年）

区	調査果数	程度別薬斑指数※				薬斑果計	薬斑果率 (%)
		0	1	2	3		
酸化亜鉛水和剤 P剤 10,000倍加用	50	45	4	1	0	5	10.0
酸化亜鉛水和剤 DP剤 10,000倍加用	32	31	1	0	0	1	3.1
酸化亜鉛水和剤 展着剤無加用	29	5	14	4	6	24	82.8

散布は7月28日（満開後104日）、収穫及び調査は7月30日。

※指数1：薬斑が1～5個、指数2：薬斑が6～11個、指数3：薬斑が12個以上



図1 散布5日後の果実(2024年7月23日)
上：展着剤無加用 下：P剤加用

4 成果を得た課題名

- 研究期間 令和2～7年度
- 研究課題名 重要な病害虫に対する防除技術の確立

5 主な参考文献・資料

- 金子洋平、福田 寛 「千葉県におけるナシ収穫期直前のキャプタン水和剤による果面汚れ軽減を目的とした「まくぴか」展着剤の利用」 千葉農林総研研報 第9号 p49-55